



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

〔発信〕松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

<http://www.matsumoto-u.ac.jp>

平成 31 年 2 月 12 日

報道関係各位

白戸ゼミによる上土まちづくり協議会との意見交換会について

拝啓

余寒の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

さて松本大学観光ホスピタリティ学科白戸ゼミは、2018年度の卒業研究として上土商店街のまちづくりをテーマにした卒業論文を作成しました。卒業論文は、3つのグループによって、それぞれ「居場所型商店街の可能性」「暮らしのテーマパーク型商店街の可能性」「食べ歩きを事例とする暮らしのテーマパーク型商店街に向けての提言」としてとりまとめられました。

「居場所型商店街の可能性」については、カフェあげつちの取り組みをもとに、旧来の近隣型商店街を若者や多様な人々が集まり交流できる場としての商店街の役割に注目し、特に市街地と縁が薄い若者にとって居場所となるにはどのような課題があるかについて論じています。さらに、居場所は一人の人がいくつもの居場所を持ち、また多様な機能を果たす居場所のあり方を「立体的な居場所」として定義し、その実現のために上土商店街をはじめとする中心市街地がどのような取り組みをすればよいかについて提言を行っています。

「暮らしのテーマパーク型商店街の可能性」については、本年度取り組んだ観光振興の取り組みをもとに、ディズニーランドなどの非日常の世界とは異なり、日々営まれる人々の暮らしを外から訪れる訪問者に魅力あるコンテンツとして提供する場として商店街の役割を論じています。インバウンド客の増加や山雅の試合観戦者などのリピーターの増加などの今までにない訪問者が街歩きなどの新しい観光を志向していることを踏まえ、歴史、文化、風土という人々の暮らしをどのように観光の魅力として発信するかについて提言を行っています。

「食べ歩きを事例とする暮らしのテーマパーク型商店街に向けての提言」は、有限会社本郷鶏肉や上土商店街と協力して食べ歩き食材として開発しているつくねの開発を実証的な実験や実態調査などを踏まえて、暮らしを体験する具体的なシステムについて検討を行っています。観光客が地元の食文化にふれる手段として食べ歩きを位置づけ、暮らしのテーマパークにおいて地域の暮らしをどのように観光客等に発信していくべきか必要な方策を具体的に提言しています。

以上の研究成果を発表しそのうえで今後上土商店街と一緒にどのような取り組みをしていくかについて意見交換を行います。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、取材方よろしくお願いいたします。

敬具

記

日 時： 平成 31 年 2 月 13 日 (水) 15 時 30 分～
場 所： 下町会館 (大手 4-8-11)
主 催： 松本大学 白戸ゼミ
参加者： 松本大学白戸ゼミ学生・大正ロマンのまちづくり協議会関係者他

以上

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・畑井研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)